

地域再生計画（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	京都府	事業実施主体	宇治市	地域再生計画名	「お茶と歴史・文化の香るふるさと宇治」の創造計画
計画期間	平成27年度～平成31年度	評価責任者	宇治市上下水道部長 畑下 茂生		

	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価		
		基準年度		年度	中間実績	基準年度					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	汚水処理人口普及率の向上	91 (%)	H 2 6	97 (%)	H 2 9	97 (%)	98 (%)	H 3 1	○	地方創生汚水処理施設整備推進交付金を活用し、住居地域を中心に整備することで目標値を達成できた。
	指標 2	地域再生計画による下水道整備地域5河川の平均BOD負荷量の減少	41.5 (kg/日)	H 2 6	30.8 (kg/日)	H 2 9	29.4 (kg/日)	18.0 (kg/日)	H 3 1	○	公共用水域の水質保全に関する指標について、中小河川の目標値を達成できた。
	指標 3	宇治川鶺鴒乗船者数の増加	6,970 (人)	H 2 6	7,570 (人)	H 2 9	6,390 (人)	8,000 (人)	H 3 1	×	乗客数の多く見込める夏休み・お盆の時期に、天候不良による増水に伴う運休が続いたため目標値を達成できなかった。しかし、長期的には増加傾向にあるため、今後も宇治川鶺鴒のPR活動を継続して行う。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	市内中小河川（10河川）のBOD年平均を基準年測定値より減少させる	4.2 (mg/l)	H 2 6	—	H 2 9	3.1 (mg/l)	—	H 3 1	○	上記の指標2でみられた平均BOD負荷量の減少と同様に、中小河川で改善が見られた。
	指標 2	家庭系のごみ排出量を基準値より減少させる	479 (g/人・日)	H 2 6	—	H 2 9	436 (g/人・日)	—	H 3 1	○	ごみの分別・減量化にむけて啓発したことから、家庭系ごみの排出抑制に効果が見られた。
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価					
			計画	中間年度 (H29)	最終実績 見込み						
特別措置を適用して行う事業	公共下水道整備事業（東宇治処理区、横島処理分区）		延長 L=19,700m	延長 L=12,730m	延長 L=19,700m	整備延長は計画に沿って順調に延びており、最終年度には目標値を達成する見込みである。					
	個人設置型浄化槽整備事業		箇所数 100基	箇所数 6基	箇所数 100基	中間年度の実績は計画値を大幅に下回る結果となったが、浄化槽対象地域の需要はあるため、浄化槽設置整備事業補助金制度の積極的な利用に向けてピラを作成・配布し、関係課とも連携しPRを行う。					
その他の事業	地域美化清掃活動「クリーン宇治」		宇治市内各種団体および市民ボランティアにより清掃活動を行う			宇治川周辺を中心に継続的に活動することで「ごみのポイ捨てが発生しづらい環境づくり」に貢献し、環境への関心を高めている。					
	ポケットパーク緑化活動		地域住民等によりポケットパークの植樹および日常の維持管理を行う			ボランティア活動により、まちかどにやすらぎ空間を創造している。今後も、資材や花苗の提供を継続して支援する。					
	子ども環境学習会		地球温暖化に関する講演や体験型学習を行う			ボランティア活動による小学校での体験型学習会を行うことで、児童の環境への関心を高めている。					
計画外で独自に実施した事業	社会資本整備総合交付金事業		宇治川周辺地区以外の公共下水道および東宇治浄化センターの整備を実施			地方創生汚水処理施設整備推進交付金事業とともに、宇治市公共下水道を整備しており、今後も早期の整備完了に向けて事業実施を行う。					
	下水道事業の広報活動		宇治川沿いの観光センターで宇治市マンホールカードを交付			マスコミに取り上げられるなどPR効果があり、下水道事業への理解へつながったほか、宇治川周辺の来客数増加に効果があった。					
④評価方法	関係部署による評価会議を開催後、学識経験者の意見を求め、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。										
⑤中間評価の公表方法	宇治市上下水道部下水道計画課のホームページに掲載及び下水道計画課窓口での閲覧										
⑥計画全体の総合評価	地域再生計画および社会資本総合整備計画に基づく事業の実施により、汚水処理人口普及率及び対象河川の平均BOD負荷量の減少については中間目標を達成できた。宇治川鶺鴒の乗船者数については、悪天候により目標を達成することができなかったが、水辺環境の改善に向けて汚水処理事業を進め、継続して水辺観光の振興を図る必要がある。その他事業についても継続的な活動により、生活環境・自然環境の保全に寄与している。										
⑦今後の方針等	地方創生汚水処理施設整備推進交付金を活用し、公共下水道については、地域・地形の特性を考慮しながら、計画的に整備を進めていく。また、合併浄化槽については、浄化槽設置整備事業補助金制度のPR活動を充実させることにより設置件数の向上を促すことで、公共用水域の水質保全や水辺環境の改善を図っていく。そのほか、地域美化清掃活動やポケットパーク緑化活動、子ども環境学習会を継続的にを行い生活環境・自然環境の保全を図っていく。										

